

第279回くらしの植物苑観察会 令和4年6月25日(土)
「デジタルアーカイブで見る草木の世界」

後藤 真 (当館研究部 准教授)

今日のお題 デジタルアーカイブ…みなさま聞いたことはあるでしょうか？

デジタルアーカイブの大きな広がり→2011年の東日本大震災をきっかけに

さまざまなデジタルアーカイブが構築されている

今日はその中から、代表的なものを紹介し、どのようなものが閲覧可能かを紹介していきたい (QRコードから紹介したデジタルアーカイブを見ることができる)

ジャパンサーチ <https://jpsearch.go.jp/>

2020年8月に正式公開された「日本の文化資源を横断検索するサービス」
歴博からも一部データを提供→今後拡充予定

検索してみるだけでなく、マイギャラリー・マイノートや類似画像検索などの機能も付いている

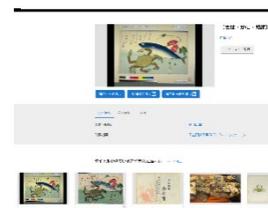


カルチュラル・ジャパン <https://cultural.jp/>

ジャパンサーチなどの機能を応用しつつ、さらに画像だけを発見できることを目指したサービス→歴博の画像も多く取り込まれている

バーチャルミュージアムなどの機能も付いている

情報学的にもかなり新しい技法 (IIF、セマンティック Web) が応用されている



Google Arts and Culture <https://artsandculture.google.com/?hl=ja>

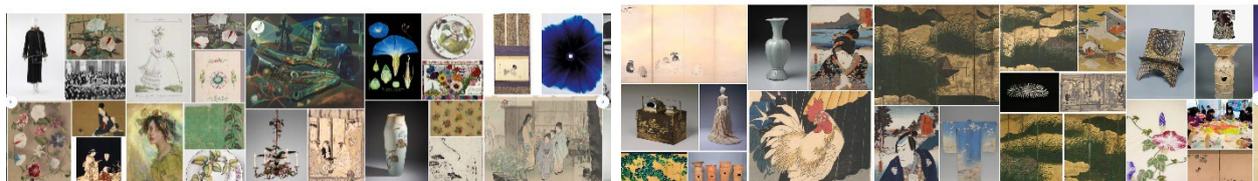
Google が進める世界の博物館・美術館のデジタルアーカイブ

世界中の美術品を一堂に会する形で見られるのが特徴

優品を見る／地域の特性を見るという両者の観点から重要

スマホアプリによる展開や、データの様々

な活用事例が示されている



e 国宝 <https://emuseum.nich.go.jp/>

国立文化財機構が所蔵する国宝と重要文化財のデジタルアーカイブ

数は少ないが、高精細の画像をしっかりと見ることができるのが強み。スマホアプリもある



デジタルアーカイブの「今」と多様な閲覧

5年前と現在とを比べ、デジタルで見られる資料類は大きく増えてきている。データの利活用の技術的・社会的な仕組みが大きく変わってきており、それが実際のデジタル化を後押しする展開にも。国際競争の中にもさらされる状況にもなっている(良い面・悪い面の両方がある)。上記サイトは、植物だけではなく、当然多くの文化的な資料類を閲覧することができるとともに、デジタル社会の最新の一端を考えるよい機会にもなれる。

デジタルは苦手!!という方も、iPadでも十分に楽しめるようになってきていますし、ぜひ、閲覧にもチャレンジしてみてください。昔の絵画と「今の植物」を比較したり、実際の今の植物鑑賞にも新たな楽しみが生まれてくると思います。

次回予告 第280回くらしの植物苑観察会 令和4年7月23日(土)

「佐倉城址公園の地衣類」 坂田 歩美 (千葉県立中央博物館 生態学・環境研究部研究員)

13:30~15:30 苑内東屋集合 申込不要 定員30名